

# 国指定重要文化財 中国地方屈指の明治建築

## じんぷうかく 仁風閣



仁風閣は明治40年(1907)5月10日、皇太子嘉仁親王(後の大正天皇)が山陰道行啓の折の宿舎として、旧藩主池田侯爵家によって建築されたものです。当初、池田家の別邸として建てる予定で、明治36年内匠頭・片山東熊博士により設計されていましたが、日露戦争勃発で延期となっていたのを、急遽着工したという経緯があります。

しかし、城址久松山や仁風閣に鳥取市民が立ち入ることはなく、大正12年(1923)千代川改修工事にともない内務省鳥取土木出張所の事務所がここに開設され、初めてお披露目されました。その後、鳥取県立科学博物館として利用されましたが、昭和18年の鳥取大地震後は荒廃が進み、中国地方で屈指の明治の建築物も取り壊しの危機に直面していました。そのような折、昭和30年代より起こっていた市民からの要望が強まり、ようやく昭和48年(1973)に重要文化財指定を受け、翌年より2年がかりで修復が行われました。

仁風閣館内には次のような展示説明があります。



仁風閣背面

フレンチ型ルネッサンス様式を基調とした白亜の木造瓦葺2階建て。ゴシック風の八角尖塔(階段室)が建物全体に安定感を与えている。背面は1・2階ともベランダを設けて軽快優美な様相を呈している。



仁風閣正面

セグメンタルペディメント(楕形破風)の棟飾りを主要モチーフとし、建物の随所にスクロール(巻軸模様)を配している。



御座所

マンテルピース(暖炉飾り)、カーテンボックスには和洋折衷の技術が見られる。

フレンチルネッサンス建築様式を基調とする木造二階建ての本格的洋風建築です。楕形ペディメント(楕形破風)を主軸にした端正な正面のたたずまいに、屋上の棟飾りや階段室の八角尖頭尾根が変化を与え、背面の1・2階吹き放しのベランダが軽快で美しい構成をしめしている。

(2階のガラス戸はあとでつけたもの)

内部は、御座所、御寝室、謁見所、御食堂の主要室をはじめとして、1・2階の各室とも室内装飾に意が払われ、マンテルピース(暖炉飾り)、カーテンボックス、シャンデリアなどの細部意匠にもみるべきものが多い

仁風閣の名づけ親は、皇太子に特別供奉員として随行した海軍大将東郷平八郎で、「仁」は五常(仁義礼智信)の仁であり、「風」は扇御殿にちなんで扇による風由来しているといわれています。

仁風閣は長い間、その価値に気づかれず傷んだまま放置されていましたが、このように格調高く本格的な明治の洋風建築は珍しく、西日本随一といわれています。その重要

文化財である仁風閣の陳列所・謁見所、敷地内の宝扇庵は市民に貸し出されています。今日、サロンコンサートなどに利用されていることを思えば、素晴らしい扇の風が久松山の麓に吹いているような気がします。



らせん階段

階段には支柱が無く、硬いケヤキを彫った厚板(ざざらげた)で支えている。

参考：秋山英治「仁風閣物語」1973  
<http://www.tbz.or.jp/jinpuukaku/>